

春季特別展



2020年

4月12日(日)～5月31日(日)

展覧会概要

戦国の世を生き抜き、天下統一を果たした家康。そして家康の九男として誕生し、泰平の世に尾張国の統治を任された義直。二人は親子でありながらも対照的な時代を生きました。家康から莫大な量の財産と蔵書を受け継いだ義直は、尾張藩の基礎を固め、名古屋を繁栄に導きました。

本展覧会では、家康から義直へと受け継がれた治世方針に焦点をあてながら、二人の生涯や治世、そして義直の家康への想いを、遺品や史料などを読み解きながらたどります。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 春季特別展 家康から義直へ－尾張藩誕生物語－
- ◆会場 徳川美術館本館展示室 蓬左文庫展示室
- ◆会期 2020年4月12日(日)～5月31日(日) ※会期中展示替あり
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、5月4日(月・祝)は開館、5月7日(木)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 中日新聞社 日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

プレス内覧会

2020年4月11日(土) 午後1時30分～2時30分

会場：徳川美術館

内容：展覧会担当学芸員が個別に取材ご対応させていただきます。

戦国の覇者、偉大なる父・家康の生きた時代とは

第1章 戦国の世と家康―義直誕生前夜―

初代尾張藩主 徳川義直を語るにあたり、天下統一を成し遂げた偉大な父、家康を避けて通ることはできません。信長との連合軍で武田軍に勝利した長篠合戦や、信長亡き後に秀吉と対立した長久手合戦、そして秀吉に臣従した後の大戦・小田原城攻めなど、戦国時代の有名な戦にまつわる史料から、家康が生きた戦国という時代の様相を紹介します。



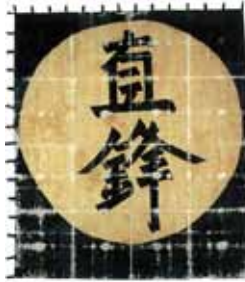
国宝 太刀 銘長光 名物津田遠江長光
つだとおとうみながみつ
織田信長の愛刀。本能寺の変で織田信長が明智光秀に討たれた後、安土城より光秀が奪った。
(4/12~5/6 公開)



重要文化財 刀 銘 本作長義… (以下 58 字略)
ほんさくちようぎ
豊田秀吉による小田原城攻めが行われた天正 18 年、北条家の家臣である長尾頭長が刀工の国広に命じ、刀の由緒について銘を切らせたとされている。

「直鋒」纏

纏は武将の居場所を視覚的に示す大型の布であり、これは縦 3m 横 2.5m にもなる。「直鋒」とは尖った鋒先という意味であり、関ヶ原合戦で松平忠吉（家康四男）が使用した。



陣太鼓
家康が所持した太鼓。有名な家康の甲冑「熊毛植黒糸威具足」に付随して伝わった。



長篠合戦図屏風 (部分)
織田・徳川連合軍と武田軍が争い、武田軍を鉄砲で破った著名な戦い。三英傑が同じ画面に描かれている。(5/8~31 公開)

秀吉歿後、家康は豊臣政権下で対立した石田三成らを破った関ヶ原合戦で天下の実権を掌握しました。この二カ月後に義直は大坂城西之丸で誕生します。家康が確固たる地位を築いたとはいえ、未だ豊臣家が健在であり、両家の間で緊張が高まっていく時代でした。

義直は一六〇三年に甲斐へ転封されましたが、幼少のため各地へは赴かず、駿府の家康の膝元で育てられました。幼き義直に代わり国政を代行していたのが、家康の忠臣・平岩親吉です。

一六〇七年、尾張国清須城に封じられていた義直の兄・松平忠吉（家康四男）は、僅か二十八歳でこの世を去ると、同年四月に義直が尾張国を継ぎました。ここでも親吉が義直に代わって国政を代行し、甲斐の武田の遺臣団や尾張の忠吉の遺臣団をまとめ上げ、義直家臣団が形成されていきます。

第2章 戦国の世と義直

十五歳、初陣。義直は戦国時代の終焉を見届ける



右：花色日の丸威胴丸具足
家康が着用した甲冑。名古屋城小天守に納められていた。
左：銀泊置白糸威具足
義直の兄である松平忠吉が関ヶ原合戦で着用した。



徳川家康自筆書状 おかめ・あちゃ宛
疱瘡を患った義直の回復を喜び、義直の母であるお亀の片と側室の阿茶局に宛てて書いた自筆の手紙。「うれしさ」「めでたく」と何度も記されており、家康の義直への愛情が見て取れる。

錐形兜

大坂冬の陣で初陣を果たした義直が身に着けたと伝わる。



家康と秀吉の息子・秀頼の間で緊張が高まっていく中、秀頼が家康と二条城で対面した際の返礼使者として義直が大坂に向かっています。義直が尾張国主としての武威を知らしめたのは一六一七年、家康が大坂城を攻めた大坂の陣でした。この時、義直は尾張勢約一万五千の軍勢を率いて初陣を果たしました。

義直は激動の戦国時代末期を最前線で経験しながら少年時代を過ごしました。義直は大坂の陣の時に、「鉄砲が降り注いでも動じることがなかった」と記述に残るほど武人らしい武人へと成長していきます。

武から文へ——名古屋の礎はいかに創られたのか 第3章 義直の治世

家康が七十五歳で亡くなると、十七歳の義直は將軍家を補佐する御三家の筆頭として、莫大な遺品「駿府御分物」を引き継ぎます。これには家康の愛用した武器甲冑や茶道具・日用品・書物など多種多様な品が含まれていました。またこの頃から政治的にも独り立ちし、尾張藩政を精力的に推し進めます。その事業は新田開発・治水事業・地場産業の発展等、多岐に渡り、尾張藩の財政の基盤づくりに貢献しました。

また義直は大変学問を好み、特に儒教を推奨しました。名古屋城内に東照社や孔子を祀り、蔵書を公開するなど、文化面でも尾張藩に大きな痕跡を残したのです。

「武から文へ」という大きな歴史の転換によって、その後二百五十年続く世界でも稀な平和な時代が築かれました。その波を時にはつくり、乗りこなし、尾張の舵取りを勤めあげた義直は、名実ともに尾張藩の始祖でした。その意思は義直の死後も後継者たちによって受け継がれ、現代の名古屋の発展へと続いていくのです。

上右：東照大権現象
義直が描いた家康の姿。一般的な家康象（神象）と比べ、人間味と柔らかさが見て取れる。（5/8~5/31 公開）

上左：「大学」の語
「君主たるものひとりの時も自律すべし」とする儒教の教えを書いた義直直筆の書。



東照宮縁起絵巻 巻五のうち巻三（部分）

家康の生涯と歿後に神格化され東照大権現として祀られた東照宮（東照社）の縁起が描かれる。名古屋東照宮蔵（期間中巻替あり）



重要文化財 脇指 無銘貞宗 名物古貞宗

義直の母、お亀の方の計らいによって義直へ受け継がれた家康の愛刀。尾張徳川家にとって最も大切な刀である。



聖像・牡丹時絵祠堂型厨子

儒教に志向した義直が、名古屋城内で祀った厨子。儒教で崇拜する孔子ら、古代の政治家・学者の像が安置されている。



神祇寶典

義直が編纂した神社の研究書。神社の歴史を古代以来の文献で明らかにした。名古屋市蓬左文庫蔵

義直のおもしろ人柄エピソード

1. それ、眠れたの？

父家康を尊敬していた義直は、家康の子として誰よりも武人であろうとしました。眠るときは脇指を手元に置き、寝返りを打つごとに右、左、と脇指の置き位置も変えたそうです。

2. 頑固者は周りが大変！

三代將軍家光に男兒（四代將軍家綱）が生まれた際、家光が義直に、お宮参りに随行するよう命じました。秩序を重んじる義直は「なぜ大納言の私が、生まれたての無位無官の赤ん坊の御供をするのか」と断固拒否。將軍の息子なのだから…と説得する周囲に対し「私も將軍家康の子だ」と応えました。

3. 江戸時代に図書館

学問を好んだ義直は大量の本を持っていました。これを「決して門外不出としないように」命じ、名古屋城で公開させたのです。江戸時代の初めに図書館の発想を持った人でした。

4. 良いと信じたら最後まで徹底

儒教を重んじた義直は、自分の葬儀も儒教式で執り行うよう遺言しました。そのため定光寺にある義直の墓は儒教式で、仏教式の戒名も付けられていません。歴代尾張藩主で戒名が無いのは義直ただ一人です。

徳川義直画像模本（部分）



日本刀で食べる限定スイーツ

喫茶室では日本刀の公開に合わせてイメージした創作菓子が大人気！今季は和菓子「物吉貞宗」と洋菓子「南泉一文字」をご用意いたしました。各刀のエピソードの表現に拘ったオリジナル菓子は、物吉と南泉をそのままミニチュア化した専用菓子切で提供します。(物吉ドリンクセット価格 700 円～/南泉ドリンクセット価格 800 円～)



創作和菓子「物吉貞宗」と菓子切「物吉貞宗」

もうひとつの注目点
日本刀十振公開

この展覧会ではかねてより多くの要望をいただいております。人気の日本刀を多数公開いたします。

大河ドラマで話題の明智光秀ゆかりの太刀、国宝「津田遠江長光」を始め、ゲームのキャラクターになった「鯉尾藤四郎」「本作長義」など、国宝三振を含む十振が展示される予定です。 ※会期中展示替あり

名古屋のルーツを築いた家康と義直についての展示や人気の刀剣をご覧いただきながら、厳しい状況にめげない元気な名古屋を取り戻す一助になれば幸いです。

「家康から義直へ」展 公開日本刀一覽

国宝 名物 太刀 銘 長光 名物 津田遠江長光 (4/12～5/6 公開)

重要文化財 刀 銘 本作長義 …(以下 58 字略)

小脇指 無銘

重要文化財 名物 刀 無銘 一文字 名物 南泉一文字

名物 小太刀 銘 源左衛門尉信国応永廿一年二月日 名物 松浦信国

重要文化財 脇指 無銘 貞宗 名物 物吉貞宗

国宝 太刀 銘 来孫太郎作(花押) 正応五年壬辰八月十三日

脇指 銘 吉光 名物 鯉尾藤四郎

短刀 銘 宗近

国宝 短刀 銘 吉光 名物 後藤藤四郎



日本刀モチーフのミュージアムグッズ

小さな刀がついたバッグチャーム(各 3300 円)、4 月始まりカレンダー(1650 円)など、当館ならではのグッズで展覧会を盛り上げます。新作も多数発売。



名刀スタンプラリー

約 1 ヶ月ごとに変わる名刀スタンプを集めながら、1 年を通じて新しい刀剣の魅力に出会えるスタンプラリー。スタンプを 7 個以上集めた方に、参加品を差し上げます(先着 500 名)。「家康から義直へ」開催中限定のスペシャル・スタンプも。

■スタンプカード設置場所: 当館インフォメーション・カウンター

■記念品交換: 2020 年 9 月 24 日(木)～2021 年 4 月 4 日(日)



視聴者・読者プレゼント提供

春季特別展「家康から義直へー尾張藩誕生物語ー」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を 1 点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧の御招待チケット(非売品)を、1 媒体 5 組 10 名様にご提供いたします。



お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



徳川美術館
The Tokugawa Art Museum

〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017
TEL: 052-935-6262 (10 時～17 時受付)
052-935-8222 (営業時間外受付)
FAX: 052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



春季特別展 家康から義直へー尾張藩誕生生物語ー
広報画像申請書 使用期間：～2020年5月31日



徳川家康画像（東照大権現象）
（部分）
伝狩野探幽筆
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵



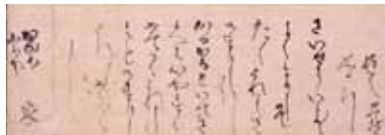
花色日の丸威胴丸具足
（部分）
徳川家康着用
駿府御分物
桃山ー江戸時代 16 - 17 世紀
徳川美術館蔵



徳川義直画像（模本）
（部分）
桜井清香模写
昭和 12 年 (1937)
（原本：江戸時代 17 世紀）
徳川美術館蔵



「大学」の語
徳川義直自筆
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵



徳川家康自筆書状
おかめ・あちゃ宛
慶長 16 年 (1611)
徳川美術館蔵



徳川家康画像
徳川義直筆・同賛
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵
公開期間：5月8日～31日



国宝 太刀 銘長光 名物 津田遠江長光
鎌倉時代 13 世紀
徳川美術館蔵
公開期間：4月12日～5月6日

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市中区徳川町 1017

TEL : 052-935-6262 (10時～17時受付)
052-935-8222 (営業時間外受付)
FAX : 052-935-6261
担当 : 吉川 yuki@tokugawa.or.jp
竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp